



子どもアートフェスティバル2023

10月8日(日)・9日(月・祝)

損保ジャパン人形劇場ひまわりホール

1DAYパスポート1,000円 2DAYパスポート1,500円

0歳から入場OK(3歳以上有料) 授乳室あり(17階)

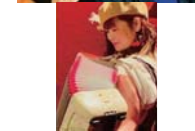


しばらくお休みしていた「子どもアートフェスティバル」が、この10月ついに復活。ひまわりホールが入っている損保ジャパン名古屋ビルのさまざまなスペースを使って、色とりどりの企画を展開します。人形劇やパフォーマンスはもちろん、音楽やダンスのワークショップも開催。マルシェでは空き時間にちょっと食べたいお菓子や軽食「ちょっとステーキ」などもをご用意して、みなさんをお待ちしています。芸術の秋に、家族そろって特別な体験をしませんか?



ラストラダカンパニー

子どもアートフェスティバルが2年振りに開催との事で、今からワクワクしています。ラストラダカンパニーは、8日(日)はChang&LONTOのパフォーマンス、9日(月・祝)はアコーディオン・かいだむつみ&LONTOのパフォーマンスと、2日間内容を変えてお届けしますよ。お客さんも我々もフェスにどっぷり浸かって楽しめよう。当日お会いできるのを楽しみにしています! ご来場お待ちしております。



劇団シンデレラ

みなさんは、同じ木ばかりはえている山と、いろんな種類の木がはえている山だったらどっちの山がいいかな? クマやリス、動物たちは、いろんな木がはえていないと生きていけないだよ...山や森はとても楽しくて素敵なおとこ。劇団シンデレラのミュージカルには、動物がいっぱい出てくるから仲良くしてね。



人形劇団ひつまぶし

県下アマチュア人形劇団のメンバーによる合同制作。2019年に愛知人形劇センター30周年記念事業にて最初の作品を上演。新メンバーも加わって制作開始した2作目は、コロナ禍で延期が続く中、昨年ようやく初演を迎えました。メンバー一同、久しぶりのフェス開催を楽しみにしています。



LimLim Puppets

青空の下でも上演できるように、テントを舞台にしました。どかんの中から出てくる小さな生き物やびっくり大きな生き物たちに、ほっこりワクワク。小さなお子さんから大人までのんびりと楽しめる、言葉のない音楽人形劇です。



Puppet Theaterゆめみトランク

観るひと、演じるひと、大人も、子どもも、とにかくみんなで楽しみたい! この子どもアートフェスにはワクワクするような「初めての出会い」がたくさんあるはず。それはきっと、すてきな宝物になりますよ!

出演団体からのメッセージ



人形劇団すずきじゅく

こんにちは~ お元気でしたか? 3年ぶりのご無沙汰です。「私たちには時間が無いよ」と、焦っていたら、ついにやって来ました。待ちに待った「子どもアートフェス」。かしくれない、この気持ち! 皆さまに、お会いできる事を、とてとても楽しみにしています。



パネット・なごや

- 皆さんの笑顔に会えるのが楽しみです。(ぼほんた)
- パネル・あそび場「ぼほんた」、ほなな、ぶちたまの3劇団ジョイントで楽しい人形劇をお届けします。(みらくる)
- みんなにあえるのを、のたしみにしています。(ペンギン)
- わくわく、どきどき、盛り上げていきましょう!(ぶちたま)
- 観客の皆さんと、どんな風にふれあえられるのか楽しみです。(ほなな)
- みなさまと一緒に楽しめる舞台を目指します!(手風琴)



名古屋腹話術クラブ

人形たちも、皆さんに会えるのを心待ちにしていましたよ。入口で声をかけたら、応えてくださいね。もちろん17階での出し物も見に来てくださいね。お待ちしております。



みとみ音楽館

(うた:磯村美有紀/ピアノ:野村知子/打楽器:近藤幹夫)
「子どもアートフェスティバル2023」の開催、みとみ音楽館一同大変楽しみにしております! 当日のワークショップではみんなの声・身体からつくりだすリズムと一緒に演奏をつくりあげていこうと思います。是非ご参加ください! 会場でご待ちしています!!

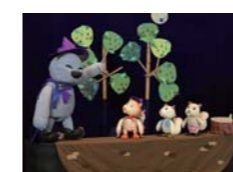
タイムテーブル

10月8日(日)10時開場

開演	会場	出演団体名	作品名
10:30	17F シアター雲	(パネット・なごや)みらくる/ぼほんた	『アニマルピク/チョコチョコになに』
11:00	19F シアター太陽	みとみ音楽館	ワークショップ
11:10	19F ひまわりホール	劇団シンデレラ	『ぼくこの森にすんでいます』
11:10	17F シアター海	Puppetheaterゆめみトランク	『かくやひめ』
11:50	1F エントランス	ラストラダカンパニー	大道芸
13:10	17F シアター雲	名古屋腹話術クラブ	『とびきり楽しい腹話術』
13:10	19F ひまわりホール	人形劇団ひつまぶし	『うたのすきなりゅう』
13:50	17F シアター海	Puppetheaterゆめみトランク	『かくやひめ』
14:00	19F シアター太陽	ラストラダカンパニー	大道芸
14:00	17F シアター雲	みとみ音楽館	ワークショップ
14:30	17F シアター雲	(パネット・なごや)ほなな/ペンギン/ぶちたま	『ほらでまぼろし123/なにかな?/パネルで!』
14:30	19F ひまわりホール	LimLim Puppets	『どかん』
15:10	17F シアター海	人形劇団すずきじゅく	『ち〜すけコロ太のハイキング』
随時	1F エントランス	わいわい飛び入り広場	
随時	1F エントランス	マルシェ(飲食販売など)	

10月9日(月・祝)10時開場

開演	会場	出演団体名	作品名
10:30	17F シアター雲	人形劇団ダブダブ	『三まいのおふだ』
11:00	19F シアター太陽	afterimage	ダンスワークショップ
11:10	19F ひまわりホール	人形劇団ゆめぼけっと	『ぼけものつかい』
11:10	17F シアター海	人形劇団むすび座	『まほうねずみのシュッポ』
11:50	1F エントランス	ラストラダカンパニー	パントマイムとアコーディオン
13:10	17F シアター雲	人形劇団わたくも	『さんびきのこぶた』
13:10	19F ひまわりホール	人形劇団紙風船	『はだかにされた王様と大臣』
13:50	17F シアター海	人形劇団むすび座	『まほうねずみのシュッポ』
14:00	19F シアター太陽	ラストラダカンパニー	パントマイムとアコーディオン
14:00	17F シアター雲	afterimage	ダンスワークショップ
14:30	17F シアター雲	(パネット・なごや)手風琴	『どうぶつ村のうんどうかい』他
14:30	19F ひまわりホール	パネルジャム	『みんなの森』他
随時	1F エントランス	わいわい飛び入り広場	
随時	1F エントランス	マルシェ(飲食販売など)	



人形劇団むすび座

みなさんこんにちは。人形劇団むすび座は「まほうねずみのシュッポ」を上演します。シュッポの使う魔法はちょっと特別。花を咲かせたり、木の実を落としたり、困っているひとを助けるために使います。まほうの言葉はシュッポ、ラン、ポラン! そんなかわいいシュッポに、みんなで会いに来てね♥



人形劇団ダブダブ

どうやらたらダブダブの人形劇を見られるの?って聞かれます。今回は一般の方にも見られる貴重な機会。ダブダブは、観客と一緒に話を進めるとも楽しい人形劇です。今回は大盛り上がりする「三枚のお札」。是非、舞台と観客が一体となった人形劇を見に来て下さい!



人形劇団わたくも

県内学生サークル有志で結成し、40年近く活動しています。みんな、歳を取りましたが、それでも新しいメンバーも増えて元気です。今回はむさ苦しいオヤジ3人による上演。毎度「面白くてためにならない」人形劇をお届けします。4年ぶりのフェスが楽しみです。



afterimage

3年ぶりの開催おめでとうございます! メンバー堀江善弘が2014年に初めて参加し、アニマルパフォーマンス「ほりほ〜くる」が生まれ、その後もWSやパフォーマンスもやらせて頂きました。そんな素敵なアートフェスに再び関わることが出来て嬉しいです! 我々は今年で20周年を迎え、最新作「Universe」に向けて日々頑張っています。主宰の服部哲郎も講師として初参加!



Report

子どもも大人もノリノリ♪ 大切なのは、誰とでも仲良く

台風7号が迫りくる中、劇場内は期待に満ちていた。東京の人形劇団ブークとブルガリアのソフィア人形劇場が共同制作した「カモメに飛ぶことを教えたドラ猫の物語」は、愛知県芸術劇場の恒例事業ファミリープログラムに組み込まれていることもあり、子どもから大人まで大勢の観客で賑わっていた。

「カモメ〜」は子りの小説家ルイス・セプルベタが環境問題や共生をテーマに著した「カモメに飛ぶことを教えた猫」を原作にしている。舞台は港町。物語は重油まみれで瀕死のカモメが黒猫ゾルバに卵を託すところから始まる。ゾルバはカモメとの約束で卵を守り抜き、無事にひな鳥が誕生。しかし、ある難題に打ち当たる――。発端に環境問題はあっても、劇としては共生、あるいは友情といった主題が色濃い。ゾルバは港の猫仲間である「大佐」「博士」「秘書」たちと結束。ひな鳥は舞台に引き込まれ、特に子どもが好反応。「志村、後ろ!後ろ!」的な展開もあり、子どもたちの掛け声や笑い声に癒された。そんな客

席の空気は音楽性の高さにも起因している。生演奏も務めるスタン・ロヤノフ「Ya-Ya」の音楽は、ヒップホップやブルース、ジャズなどブラックミュージックの要素をふんだんにノリ良く劇を彩る。アフリカまで感じさせる部分もあり、打楽器のコンゴとカホーン、木管のクラリネットという3種で音楽劇としても成立させていたのだ。これに観客も自然と応え、手拍子のみならず足を踏み鳴らすなど場内全体が盛り上がった。なお、耳が優れているからか、日本語のセリフが上手なものも大ウケ。誰もが彼らに親しみを覚えたのだろう、終演後の撮影タイムは人の輪が絶えなかった。

ひな鳥の翼が着脱可能といった人形劇らしい笑いももちろんながら、「カモメ〜」は異なる他者との交流や共生という現代的な問題をやさしく投げかけた。終幕、音楽のロヤノフが人間役として動物たちと対峙するメタ構造も興味も、脚色・演出のカティア・ペトロヴァの手腕が光った。

素晴らしいキャラクターたちによって観客は舞台に引き込まれ、特に子どもが好反応。「志村、後ろ!後ろ!」的な展開もあり、子どもたちの掛け声や笑い声に癒された。そんな客

8月11日:パティオ池鯉鮒花しょうぶホール、14日・15日:愛知県芸術劇場小ホールにて公演
画像提供:パティオ池鯉鮒

